



中国工場との調整を担う池田社長

イヤホン開発で事業拡大 自社ブランド「^{らぐや}楽具家」 も展開



私のこだわり ものづくり

株式会社マーキス

いけだ けんいち 代表取締役社長
池田 憲一

昭和40年昭島市生まれ
平成29年に社長就任

◆住所:西東京市谷戸町3-9-4
◆電話:042-425-0123

株式会社マーキス 西東京市

小ロット製造戦略で ヒット商品を生み出す

株式会社マーキスは企業からの委託を受け、オーディオ・携帯アクセサリーなどを開発するOEMメーカーだ。VTRのヘッドクリーニング開発からスター

トし、オーディオ機器の変革とともにヘッドホンやイヤホンの開発に移行。さらに、iPhoneがイヤホンジャックを廃止してからは、無線のBluetoothイヤホンの製造が主流となっている。

時代と共に変化するそんな顧客ニーズを的確に捉え、中国の現地工場と日本を行き来しているのが池田憲一社長だ。光ピックアップレンズクリーナー開発時から桑原正明前社長と共に会社をけん引してきたが、平成29年に社長に就任し、中国との調整を担う。

「中国に足を運べないクライアントに代わり、お客さまが求める音の調整や売れ筋のパッケージ制作などを行い、商品になる直前までを見届けます」と池田社長。提案力とデザイン力で顧客を獲得し、年間約10万個のイヤホンを製造している。

500個からの小ロット製造を請け負うのも特徴で、「手間は掛かりますが、500個以上売れる商品を作れば追加注文が入り、次の依頼にもつながります。それも戦略の一つ」と話す。

そんな小ロット戦略が成功したのが、今、話題のヘッドホン専門店「e☆イヤホン」と平成29年に開発したイヤホン「Hi-Unit (ハイユニット) シリーズ HSE1000」だ。「e☆イヤホン」が求める音を何度もチューニングし、13色のカラーバリエーションで販売した。さらに「重低音モデル」や「ハイレゾ」など、シリーズのラインアップも増え、月約30万個売れるヒット商品となった。大手量販店での販売も決定し、さらなる成長が見込まれている。

次に仕掛けたのが自社ブラン



社員一丸となって、自社ブランドを立ち上げた

「e☆イヤホン」と開発したイヤホン「Hi-Unitシリーズ」

ド「楽具家(らぐや)」。あえて時代を捉えたものではなく、CDなどの「手動式レンズクリーナー」や、家電量販店で販売を終了している「MD用手動式レンズクリーナー」など、ニッチな商品群をブランドとして立ちあげた。

「ひと昔前のオーディオ機器でも愛用者はたくさんいます。カセットテープやレコード、ビデオなどの機器を復活させるオンラインワン商品を作り、復活商品」といえば当社という品ぞろえにしたい」と池田社長。すでに「MD用手動式レンズクリーナー」が月約80個売れるなど、想定以上の売れ行きとなっている。令和元年9月には自社通販サイトも立ち上げる予定だ。

「これからも『多品種少量』『圧倒的品ぞろえ』を武器に、クライアントの裾野を広げつつ、会社の新たな機軸として、他社にはないオリジナル商品の開発に力を入れていきたい」と池田社長は語る。

西東京市産業振興課 INFORMATION

産業振興マスタープラン後期計画を策定しました!

市ではこのたび「西東京市産業振興マスタープラン後期計画」を策定しました。2019年度から2023年度までの5年間は、この計画に基づいてさまざまな産業振興施策を実施していきます。

- ① 持続可能な「農」が共生するまちをつくる
- ② 多様な「しごと」が生まれ循環するまちをつくる
- ③ 身近な「商店街」が暮らしを支えるまちをつくる
- ④ 魅力ある「西東京市ブランド」が輝くまちをつくる

この4つの方向性を軸に構成されており、本紙も④の中の位置付けにより発行しています。

計画書では、これまでの振り返りから、ヒアリング調査による課題や要望のまとめ、各種事業への理解を深めるコラムなど、読んでいただきたい内容をたくさん掲載しています。市のホームページで全編を公開していますので、ぜひ一度ご覧ください。なお、市役所両庁舎の情報公開コーナーで、有償頒布(1部1,100円)を行っています。



西東京市産業ニュース 匠ナビ

本誌は西東京市の注目の企業・事業所のホットな情報をお届けしています。市内企業・事業所へのマッチング、商談などのご相談は、西東京市産業振興課までお問合せください。

産業振興課・商工係 ☎042-438-4041

